

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆2040年度の民間投資230兆円超に 戦略17分野で官民投資計画

・政府は人工知能(AI)・半導体などの戦略17分野を巡り、2040年度までに官民で総額370兆円超を投資する計画をまとめた。他の分野も含めた40年度の単年度での国内民間設備投資は現状目標(200兆円)を上回る230兆円超になると試算。高市首相は各国が財政支出を伴う産業政策を展開と触れ「日本でも国内投資を強力に後押しする」と述べた。

◆東証が注文処理能力を倍増へ 1日15億件、11月にも過去最大の増強

・東京証券取引所は2026年秋にも、取引注文の処理能力を2倍に増強す。海外投資家などの流入で急増する取引量に、過去最大の引き上げ幅で対応。「異次元」とも呼ばれる活況が東証の取引システムのトラブルにつながる事態を未然に防ぐ。「アローヘッド」と呼ばれる株注文の処理システムは現在、1日あたり8億3000万件を処理できる。

◆個人向け国債の魅力向上、諮問会議・民間議員が提言へ

・気象庁は7～9月の3カ月予報を発表。平均気温は東日本や西日本、沖縄・奄美で平年より高く、北日本で平年並みか高い見込み。特に7～8月は平年と比べ高温予想の地域が多く、同庁は熱中症への警戒を呼びかけている。気象庁によると、期間の前半は偏西風が北寄りを流れ、暖かい空気に覆われやすい。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆ダイキン、「体感5度下げる」空調付きベンチ 鹿島などと共同開発

・ダイキン工業は鹿島などと共同で空調機能を備えたベンチを開発したと発表。背面や側面から風を送り、体感温度を5度下げる。夏の猛暑が年々厳しさを増すなか、エアコンを設置しづらい屋外でも熱中症対策に取り組む。千代田区丸の内仲通りで開催されるイベント会場に試作品を設置し、利用者へのアンケートなどを通じて事業化の可能性を探る。

◆新設着工、2040年度は61万戸——野村総研予測

・野村総合研究所(NRI)は2040年度までの新設住宅着工戸数、リフォーム市場規模の予測を公表。新設住宅着工戸数は30年度に80万戸、40年度には61万戸になると予測。25年度の着工数は71.1万戸で、その後30年度までは増加を見込む。その後は減少傾向に転じ40年度には25年度比で約18%の減少(1988年度以降最も低い水準)。

◆空調用冷媒フロン、集約業を登録制に 中国依存脱却へ回収・再生促進

・政府は空調用冷媒フロン類の再利用を後押しする。集約業を全国で登録制にして一定の質を担保して効率的な回収につなげる。輸入での中国依存を減らして、経済安全保障を強化する狙いがある。2027年ごろのフロン排出抑制法の改正を視野に、中間集約業を都道府県の登録制とする方針。

《 注目商品 》

■パナソニック、コンパクト化と使い勝手向上を両立 compact-3 plan

・コンパクト化と使い勝手向上を両立した対面キッチンの新プラン。横並びの3つのコンロ「フラットワイドコンロ」、奥行を拡大し、3方向から囲んで使用できる「ラウンドアクセスシンク」、大容量で450mm幅の「フロントオープン食洗機」搭載プラン。



■トーヨーキッチン、マットメタリック+立体表情の新デザイン

・システムキッチン「BAY(ベイ)」「BAY CUBE(ベイキューブ)」の新デザインとして「S チタニウム2」をラインアップ。マットメタリックな質感と、高圧・高熱処理された特殊樹脂含浸素材「HPL(ハイプレッシャーラミネート)」による立体的なテクスチャーが繊細な陰影を表現。



■パロマ、ビルトインコンロの清掃性・利便性を向上 WITHNA(ウィズナ)

・丸ボタンの点火ボタンを搭載したスタイリッシュなビルトインコンロの同シリーズをモデルチェンジ。「ひろびろすっきりトップ」を全機種で採用。グリル排気口をアイランド構造とし、すっきりとさせることで清掃性や調理中の鍋の仮置きなどの利便性が向上。

